

【SigmaSystemCenter 3.3u1以降】SSC0303-0002-update1を適用済の待機系サーバ上でSystemMonitor性能監視のアップグレードを実行した場合に発生するエラーの対処方法

対象バージョン:SSC3.3u1以降

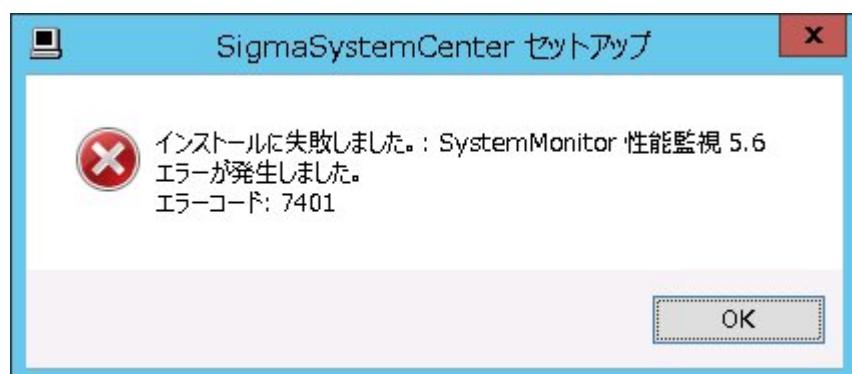
ドキュメント番号:SSC0304-doc-0043

本資料では、修正モジュールSSC0303-0002-update1が適用されたクラスタ環境の待機系サーバ上で、SystemMonitor性能監視のアップグレードや再インストールが失敗する問題について、説明します。

本資料の問題に該当する場合は、後述の【対処方法】を実施してSystemMonitor性能監視のインストールを行ってください。

【現象】

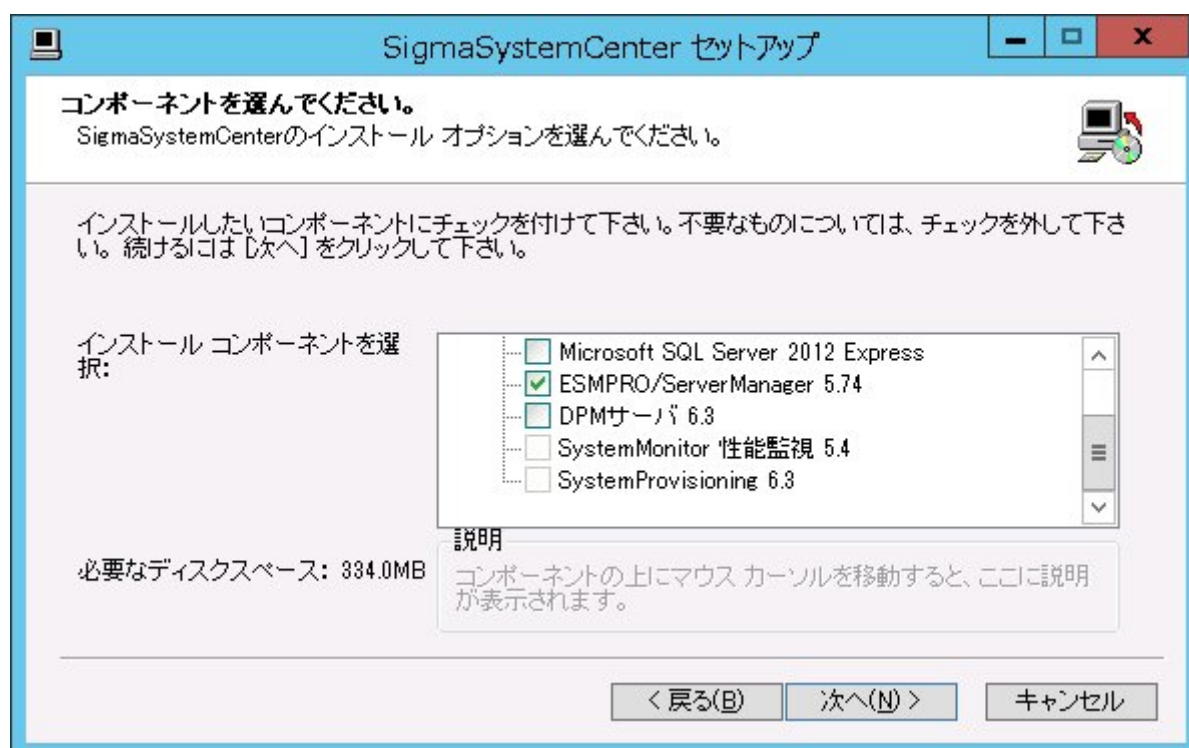
クラスタ環境の待機系サーバ、及び、修正モジュールSSC0303-0002-update1が適用済のSigmaSystemCenter3.3 Update1の環境にて、SigmaSystemCenter3.4以降へのアップグレードを行う時、SystemMonitor性能監視のアップグレード中に以下のエラーメッセージが出力されアップグレードが失敗します。



また、上記現象以外では、以下の現象も本資料の対象です。

SystemMonitor性能監視5.5(SigmaSystemCenter3.3 Update1)のアンインストールを行った後、再度のインストールが不可の状態となります。

- SigmaSystemCenterのインストーラのコンポーネント選択画面で以下のようにSystemMonitor性能監視が選択不可となるため、インストールを行うことができない。



【発生条件】

クラスタ環境の待機系サーバ上で、次のように修正モジュールSSC0303-0002-update1を使用して

SigmaSystemCenter3.3(Updateなし)からアップデートを行っている環境で発生します。

- SigmaSystemCenter3.3(Updateなし)で新規インストールを実施 修正モジュールSSC0303-0002-update1のアップデートを実施
- SigmaSystemCenter3.3以前のバージョンで新規インストールを実施 SigmaSystemCenter3.3(Updateなし)にアップグレードインストールを実施 修正モジュールSSC0303-0002-update1のアップデートを実施

SSC0303-0003などSSC0303-0002-update1の後にリリースされた修正モジュールのアップデートを実施済みの場合も、上記のいずれかの条件を満たしている場合は前述の現象が発生します。

次のように、修正モジュールSSC0303-0002-update1の適用を行っていない場合は発生しません。

- SigmaSystemCenter3.3 Update1のインストールメディアを使用して新規インストールを実施
- SigmaSystemCenter3.3以前のバージョンで新規インストールを実施 SigmaSystemCenter3.3 Update1のインストールメディアを使用してアップグレードインストールを実施

また、クラスタ環境の現用系サーバ側では上記の各条件を満たす、満たさないに関わらず、現象は発生しません。

【本資料の問題かどうかを確認する方法】

上記のエラーが発生した時に、本資料で対象とする問題に該当するかどうか、以下の確認を行ってください。次の説明に記載されている状況と異なる場合は、別の問題の可能性が高いため、サポート窓口までお問い合わせください。

- アップグレード時に失敗した場合の確認方法
 1. アップグレード実行時に出力される次のログファイルを確認します。

```
%USERPROFILE%\AppData\Local\SSC\sysmon_msisetup.log
```

2. ログファイル中に次の記述が含まれる行がないか確認します。

```
"製品：SystemMonitor性能監視 -- 既に本製品の新しいバージョンがインストールされています"  
"既に本製品の新しいバージョンがインストールされています"
```

3. 上記の記述がある場合、本資料で説明する現象に該当します。

- アンインストール後に再インストールができない場合の確認方法
 1. レジストリエディタ(regedit.exe)を起動します。
 2. レジストリキー「HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\RMP」が存在するか確認してください。
 3. 上記レジストリキーが存在する場合は、本資料で説明する現象に該当します。アンインストールを実行した場合、通常、レジストリキーは削除されますが、本現象の場合アンインストール後もレジストリキーが残ります。

【原因、影響】

SSC0303-0002-update1のClustering.txtに記載されている待機系サーバ上でのSystemMonitor性能監視のアップデート方法について、アップデートの実行方法の記述に不足がありました。

記述通りSSC0303-0002-update1のSystemMonitor性能監視のアップデートを実行すると特殊なモードでインストールが行われ、インストール状態が不正になります。

SystemMonitor性能監視のインストール状態が不正になると以下のインストールに関連する問題の影響が発生します。

- SystemMonitor性能監視に対して、SigmaSystemCenter3.4以降のバージョンへのアップグレードインストールを実行すると、実行時にエラーが発生してアップグレードできない。
- SystemMonitor性能監視のアンインストールを実行した場合、アンインストールが正常に実行できず、インストール済みの状態で残ってしまう。その後、SystemMonitor性能監視の再インストールができない。

ただし、インストール状態が不正な状況でも、製品動作には影響はありません。

また、SSC0303-0003などSSC0303-0002-update1の後にリリースされたSigmaSystemCenter3.3の修正モジュールの適用は正常に行うことができます。(修正モジュールを適用してもインストールの不正状態は解消されないため、上記影響の問題は依然として発生します。)

SSC0303-0002-update1のClustering.txtの手順の問題箇所は以下の通りです。

-----従来のClustering.txtの記述(847行目～851行目抜粋)-----

(3) インストーラの実行

- 1) 「1. インストールを行う前に (ソフトウェアの解凍)」で解凍したフォルダの下の "SSC0303-0002-update1\RMP" フォルダに格納されている "SystemMonitor性能監視.msi" を実行してください。

(作業フォルダ)\SSC0303-0002-update1\RMP\SystemMonitor性能監視.msi

現在公開されているSSC0303-0002-update1(修正版の更新日は2015/09/02)のClustering.txtでは、以下のように修正されています。

```
-----現在のClustering.txtの記述(847行目～852行目抜粋)-----
(3) インストーラの実行

1) 「1. インストールを行う前に (ソフトウェアの解凍)」で解凍したフォルダの
  下の "SSC0303-0002-update1¥RMP" フォルダに格納されている
  "SystemMonitor性能監視.msi" を使用します。
  以下のコマンドを実行してください。

msiexec /i "(作業フォルダ)¥SSC0303-0002-update1¥RMP¥SystemMonitor性能監視.msi"
  /! *vx+ %USERPROFILE%¥AppData¥Local¥SSC¥sysmon_msisetup.log
  ALLUSERS=1 ARPNOMODIFY=1 ARPSYSTEMCOMPONENT=1
-----
```

【対処方法】

現在インストールされているSystemMonitor性能監視を一旦アンインストールした後に、インストール対象のバージョンのSystemMonitor性能監視を新規にインストールします。

インストールの状態が不正になっているため、アンインストールの作業は2度行う必要があります。また、作業中にSystemMonitor性能監視のレジストリキーの削除が必要です。
前述の【現象】に記載の2つの現象の両方に対処できる方法です。

具体的な手順は以下の通りです。

クラスタ環境での必要なクラスタの操作は既に実施済の前提とします。「クラスタ環境のアップグレード手順(SSC2.0/2.1/3.0/3.1/3.2/3.3 SSC3.4)」の「23.ソフトウェアのアップグレードインストール (待機系サーバでの作業)」を実施中に問題が発生した場合の対処方法の説明とします。

1. 現在インストールされているSystemMonitor性能監視の設定ファイルのバックアップを行います。
SystemMonitor性能監視インストールディレクトリ配下の以下のファイルをバックアップします。

- bin¥rm_client.xml
- bin¥rm_service_init.xml
- bin¥rm_database.xml

2. 現在インストールされているSystemMonitor性能監視のアンインストール、及び、不要なレジストリ情報の削除を行います。

1. コマンドプロンプトで以下を実行して、SystemMonitor性能監視5.5(SigmaSystemCenter3.3Update1)をアンインストールします。

```
msiexec /x {92B61390-1093-4827-8A15-439CE9048E30}
```

既にSystemMonitor性能監視5.5をアンインストール済みの場合、「この操作は現在インストールされている製品に対してのみ有効です」というメッセージが出力され、エラーになります。
上記のエラーがでる場合は、下記の2.2.の手順に進んでください。

2. コマンドプロンプトで以下を実行して、SystemMonitor性能監視のレジストリキーを削除します。
レジストリの変更を行うため、入力の間違いないように注意して行ってください。

```
REG DELETE HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥RMP /va
```

3. コマンドプロンプトで以下を実行して、SystemMonitor性能監視5.4(SigmaSystemCenter3.3)をアンインストールします。

```
msiexec /x {E1BD62A4-89A4-4C6A-99EB-C9877782E64C}
```

3. インストール対象のバージョンのSystemMonitor性能監視のインストールを行います。
以下の通り、SigmaSystemCenterのインストーラを起動して、SigmaSystemCenterのインストーラからSystemMonitor性能監視のインストールを行ってください。待機系サーバのインストール用のオプション「/CLUSTERSTANDBY=1」の指定が必要です。

```
インストールDVD-R:¥ManagerSetup.exe /CLUSTERSTANDBY=1
```

インストーラ起動後、「コンポーネントの選択」画面でSystemMonitor性能監視を選択して、インストールを実行してください。

SigmaSystemCenterのインストーラの利用方法詳細については、「クラスタ環境でのアップグレード手順」や「SigmaSystemCenter インストールガイド」を参照してください。

4. 手順1.でバックアップしたファイルをリストアします。

SystemMonitor性能監視インストールディレクトリ配下にバックアップファイルをリストアします。

- bin¥rm_client.xml
- bin¥rm_service_init.xml
- bin¥rm_database.xml

5. SystemMonitor性能監視サービスのスタート種類を、「手動」に変更します。

[スタート] メニューから[コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを"手動" に設定します。

- System Monitor Performance Monitoring Service

【参考情報】

本資料に記載のマニュアルは、以下からダウンロードしてください。

- 「クラスタ環境でのアップグレード手順」
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140100409>
- 「SigmaSystemCenter インストレーションガイド」
<http://jpn.nec.com/websam/sigmasystemcenter/download.html>